

成人学習27年の変遷

～NHK調査データに見る～

大串 兎 紀 夫

はじめに

平成18年改正された教育基本法で“生涯学習社会の実現”が教育の基本理念として明記された（第3条）。昭和40年（1965）ユネスコの成人教育会議で「生涯教育」が提唱されてから40年経って、法体系（制度）としては、ようやく教育の基本に「生涯学習」がすえられたのである。

もちろん、その間わが国でも昭和56年の「中央教育審議会答申（生涯教育について）」や昭和62年の「臨時教育審議会答申（生涯学習体系への移行）」、平成2年の「生涯学習振興法」の制定など、実質的には生涯学習振興の施策が国を挙げて図られ、高度経済成長による暮らしの豊かさが実感されることと軌を一にするように、昭和50～60年代（1980年代）にはカルチャーセンターの盛況など学習ブームともいえる状況も現出した。

しかし、平成（1990年代）にはいりバブル経済の破綻をきっかけに、生涯学習への熱気は影を潜め、教育行政も生涯学習振興にあまり触れなくなった。一方、人々の間では、教育・学習にかかわるNPOやボランティアなどの活動は着実に広がり進んでいるし、個人の学習活動も実質的に盛んになっているようにも見える。

では、実際には人々の生涯学習に関する行動や関心はどのように変化しているのだろうか。わが国の生涯学習の実態の一端として成人の学習状況を実証的にデータで明らかにする試みの一つとして、筆者も初期の調査にかかわった『NHK学習関心調査』（昭和57年～平成10年、5回実施）と、今年（平成20年）

実施された『NHK 学習関心とメディア調査』の公表データを比較・検証することで、あしかけ27年にわたるわが国の成人の学習状況の変化を概観してみたい。¹⁾

尚、『学習関心調査（'82～'98）』（以下「82調査」「88調査」「98調査」等と表記）と『学習関心とメディア調査』（以下「08調査」と表記）では、調査の設計、方法が異なっている点も多いため、「08調査」担当者も断っているように、厳密には時系列での比較は出来ないが、学習の定義、領域区分、学習内容項目、学習方法の分類など共通する部分が多いので、成人学習の大まかな傾向を知るためにあえて比較、分析、考察を試みた。

1. 1980～1990年代の学習の変化

1980～1990年代の学習状況の変化については、「98年調査」の報告書で、学習行動・学習関心、学習方法の変化が比較・考察されている。²⁾

そこでは、「5回の調査に見る学習行動、学習関心の推移」として、次の7項目を挙げている。

- 1) 学習意欲は1985～1988年をピークに後退傾向
- 2) 学習への行動、関心の低下がみられる男女若年層、活発化し続ける女性高年層
- 3) [趣味] [家庭] [教養] の領域の学習（行動）が減少
- 4) 顕在的学習関心率はすべての領域で減少
- 5) [趣味] [家庭] 領域に若者離れか
- 6) 潜在的レベルを含めた「学習関心」率は[家庭] [社会] [教養] で増加

このほか、学習方法の変化については、主な方法の中で「本・雑誌」「テレビ」のメディア系の方法が減少気味としている。

以下、この各項目にそい、データに基づいて、「08調査」の結果と比較しながら、27年間の変化を検証したい。

2. 学習している人、関心のある人の変化

成人学習の概要として、この27年間で、「学習をしている（学習行動）人」、
「学習したいと思っている（学習関心）人」は、どのように変化してきたのか
を見てみたい（表－1）。

表－1 学習行動、関心ある人（率）の変化

	学習行動	学習関心（顕在的）	同（顕在＋潜在的）
82調査	40.2%	50.5%	86.8%
85調査	50.4	58.5	91.2
88調査	45.0	58.5	89.6
93調査	44.7	56.6	89.6
98調査	40.1	49.6	89.8
08調査	34.7		77.3% (92.0)

学習行動は停滞気味？

まず、「学習行動」（この1年間に行った、行っている学習）をした人は「82年調査」では40%で、「85年」に50%に急増したが、その後45%となり、「98年」に40%と減少した。それが「08年調査」では更に減って35%となっている。前述のように、調査方法が違うので軽々にはいえないが、学習をする人の比率は減り気味であり、「98年調査」報告で指摘された実際の学習行動が後退という傾向は続いているとみられる。

学習関心は変わらず高い

一方、「学習関心」（何かやってみたい、学びたいことがある＝顕在＋潜在的学習関心）のある人は、ずっとほぼ90%だったが、「08年」では80%～90%で、きわめて高い比率が続いており、わが国の成人の学習への関心、意欲の高さは変化していないといえよう。尚、「（自ら学びたいという）顕在的学習関心」は、50～60%であったが、今回は調べられていない。

高年層はますます活発に～性・年層別に見た学習行動, 学習関心

次に,「男女若年層の低下と女性高年層の活発化」はどうか。表-2-1 (4,5 ページ)と表-2-2 (6 ページ)を比較してみよう。

表-2-1 学習行動率、顕在的学習関心率の推移 (性・年層別)

学習行動率 (100%=各層のサンプル) (%)

	1982	1985	1988	1993	1998
全体	40.2 <	50.4 >	45.0	44.7 >	40.1
男	38.4 <	51.9 >	45.1	43.4 >	36.8
女	41.7 <	49.2 >	45.0	45.8	43.3
男20～24歳	39.8 <	54.1	43.1	45.4 >	21.7
男25～29	50.0	61.2 >	46.7	49.3	41.3
男30～34	42.9 <	58.5	48.6	39.1	35.1
男35～39	41.6 <	55.7	47.1	34.8	39.8
男40～44	30.3 <	52.3	46.2	41.7	42.9
男45～49	39.8	44.4	41.6	43.3	44.1
男50～54	35.7	48.0 >	35.4 <	50.5 >	32.6
男55～59	33.7	47.3	45.1	48.8	40.2
男60～69	37.3	48.9	48.4	41.5	36.2
男70～79	28.2 <	45.0	46.8	40.5	31.5
女20～24歳	59.1	59.6	49.1	47.3	39.2
女25～29	47.4	52.3	45.0	40.7	39.6
女30～34	43.0	46.9	45.0	48.6	36.6
女35～39	49.0	57.1	52.6 >	37.0	41.7
女40～44	38.5 <	53.3	50.6	44.1	40.6
女45～49	44.9	46.6	44.4	45.9	40.5
女50～54	40.8	49.3	46.7	49.5	52.6
女55～59	40.4	50.0	41.7	54.8	49.3
女60～69	31.6	39.8	37.8 <	51.0	50.3
女70～79	15.9 <	36.7	32.6	34.6	39.1
有職	40.9 <	52.7 >	44.8	45.5 >	39.7
主婦	45.4	48.4	45.1	44.8	44.7
学生	38.0	53.2	58.1	47.4	35.2
無色	26.2 <	42.1	42.5	38.8	35.1

<前回より有意に増加 (信頼度95%)> 前回より有意に減少 (信頼度95%)

学習行動では、男性全体と女性全体では「82調査」から「93調査」まではあまり差がなかったが、「98調査」では男性の低下が目立ち、女性のほうが高くなっていった。「08調査」ではこの傾向は更に強くなり男性28%に対し女性は40%と大きな差が出ている。これを更に細かく年層で見ると、「82調査」には男女ともに20代が高く、60・70代の高齢層が低い傾向だったが、「85調査」以降男女とも中高年層の行動率が伸び年齢による差があまりなくなっていた。それが、「98調査」で男女とも若年層での低下が見られ、特に20代前半に低下が目立つ

表一 2-1 学習行動率、顕在的学習関心率の推移（性・年層別） 続き

顕在的学習関心率		(100% = 各層のサンプル) (%)				
	1982	1985	1988	1993	1998	
全体	50.5	< 58.5	58.5	56.6	> 49.6	
男	43.9	52.2	52.1	50.4	> 42.2	
女	56.1	63.6	64.3	62.2	> 57.0	
男20～24歳	62.4	71.6	65.4	58.8	> 41.3	
男25～29	61.1	60.3	57.6	59.2	48.7	
男30～34	50.0	< 62.7	51.4	55.1	48.6	
男35～39	44.8	61.1	58.1	56.2	58.1	
男40～44	45.5	49.0	< 64.3	52.4	57.1	
男45～49	44.2	46.8	52.0	61.7	> 41.4	
男50～54	31.2	< 56.7	48.7	45.5	31.6	
男55～59	42.2	44.5	43.4	50.0	44.3	
男60～69	30.5	39.1	42.8	42.3	35.0	
男70～79	19.7	18.7	28.6	21.6	20.5	
女20～24歳	73.6	< 88.5	> 77.7	70.3	58.1	
女25～29	74.1	74.2	77.5	77.8	67.6	
女30～34	63.6	< 73.7	73.2	77.1	69.5	
女35～39	68.2	77.0	75.0	66.7	65.6	
女40～44	68.9	65.3	< 76.1	70.1	63.2	
女45～49	63.0	73.0	65.5	72.5	> 59.5	
女50～54	44.6	< 59.5	64.4	64.2	55.7	
女55～59	50.0	53.4	59.2	54.8	64.0	
女60～69	29.7	< 43.5	41.9	47.7	48.3	
女70～79	13.4	19.3	20.7	18.5	20.7	
有職	51.9	< 60.9	59.5	58.8	> 49.3	
主婦	56.0	65.1	65.0	61.7	59.7	
学生	70.0	79.0	67.7	71.9	57.4	
無色	27.7	30.0	37.0	31.3	32.6	

太字：1982年より有意に増加（信頼度95%） 斜体：1982年より有意に減少（信頼度95%）
 (NHK「放送研究と調査」1998年9月号)

表一2-2 「08調査」学習行動、学習意欲（性・年層別）

学習行動有無（男女年層別）

(%)	全 体	男	女	男						女					
				20	30	40	50	60	70	20	30	40	50	60	70
				代	代	代	代	代	歳 以上	代	代	代	代	代	歳 以上
している(いた)	35	28	40	25	20	20	24	35	47	32	31	29	45	57	49
していない	65	71	59	75	80	80	75	64	52	68	69	70	54	42	51

学習意欲まとめ（男女年層別）

(%)	全 体	男	女	男						女					
				20	30	40	50	60	70	20	30	40	50	60	70
				代	代	代	代	代	歳 以上	代	代	代	代	代	歳 以上
学習意欲あり	77	72	82	75	73	74	75	72	65	89	88	87	85	78	61
学習意欲なし	23	28	18	25	27	26	25	28	34	11	12	13	15	22	38

(NHK「放送研究と調査」2008年8月号)

だが、「08調査」の結果は、この若年層の学習行動率の低下が更に中年層にも広がり、男性では50代まで20%台となり、相対的に高い女性でも40代以下は30%前後と低くなった。一方、女性60・70代はさらに高くなったが、男性も70代で女性とほぼ同程度に高くなった。この結果、かつてとは逆に高年層の方が若年層より学習行動率が高くなった。

学習関心は、性・年層の違いで学習行動ほど顕著な差は見られないが、やはり1980年代に高かった若年層が90年代にはやや低がしていたし、1980～90年代を通じて男女とも60代以上の高齢層の学習関心率が伸びていたが、「08調査」にはあまり差がなくなっている。

3. 学習内容の変化

つぎに、具体的な学習の内容（学習項目）はどのように変化してきたのだろうか。学習行動については「82調査」「88調査」「98調査」の上位10項目と「08調査」の上位5項目の4回分について比べ、学習関心については同じ4回の調査について領域別の3位までを比較してみたい。

学習行動項目の変化

学習行動の上位項目を見ると、表-3-1のように「88調査」では「編みもの」「華道」「バレーボール」「茶道」と上位はいずれも伝統のお稽古事か、ママさんバレーといわれるように主として女性の学習項目である。それが「88調査」では主として男性の「ゴルフ」や若者の「テニス」「英語会話」が上位に入ってきた。さらに「98調査」では「ゴルフ」が1位になったほか、女性では「編みもの」「茶道」などは10位以下になり、代わって「水泳」や「家庭園芸・ガーデニング」などが入った。

「08調査」（8ページ、表-3-2）では「パソコンの使い方」「歌をうたう」「トレーニングジムでの運動」という時代を反映する新しい項目が上位に入ってきたが、逆に従来2%以上（小数点以下四捨五入）だった多くの項目～その多くが「華道」「編み物」などの伝統的習い事やスポーツでもグループで行うものが姿を消している。

表-3-1 人気学習行動項目（%）

82調査		88調査		98調査	
1, 編みもの	3.7	華道	3.0	ゴルフ	2.4
2, 華道	3.6	ゴルフ	2.8	水泳	2.2
3, バレーボール	2.0	編みもの	2.7	書道をする	2.0
4, 茶道	2.0	家庭園芸	2.6	英語会話	1.9
5, ゴルフ	1.9	書道	2.4	華道	1.6
6, 書道	1.9	テニス	2.2	家庭園芸・ ガーデニング	1.6
7, テニス	1.6	英語会話	1.9	バレーボール	1.3
8, 釣り	1.6	釣り	1.8	スキー	1.2
9, 野球	1.5	水泳	1.7	釣り	1.1
10, 民謡	1.2	バレーボール	1.6	テニス	1.1

表-3-2 「08調査」上位学習項目（順位は実数の違いによる）

1, ゴルフ	3%
2, パソコンの使い方	2
3, 水 泳	2
4, 歌をうたう	2
4, トレーニングジムでの運動	2

学習関心項目の変化～男性は年金，女性は健康

学習関心の変化については、「98調査」の上位項目を性・年層別（5歳刻み）にグラフ化したもの（9～11ページ，図-1）と、「08調査」性・年層別（10歳刻み）の表（12～13ページ，表-4）とで，比較する。「98調査」は項目別に性・年層で表しており、「08調査」は性・年層別に上位項目を表しており比較しにくいのが，特徴的に変化した点をいくつか指摘したい。

まず、「英語会話」（08調査では「英語」）は，どちらの調査でも，男女とも20～40代で1位で最も多く希望されており，50代でも男女とも上位である。これは，「82調査」以来変わらず，わが国の英語に対する憧れ，コンプレックスの端的な現れであろう。

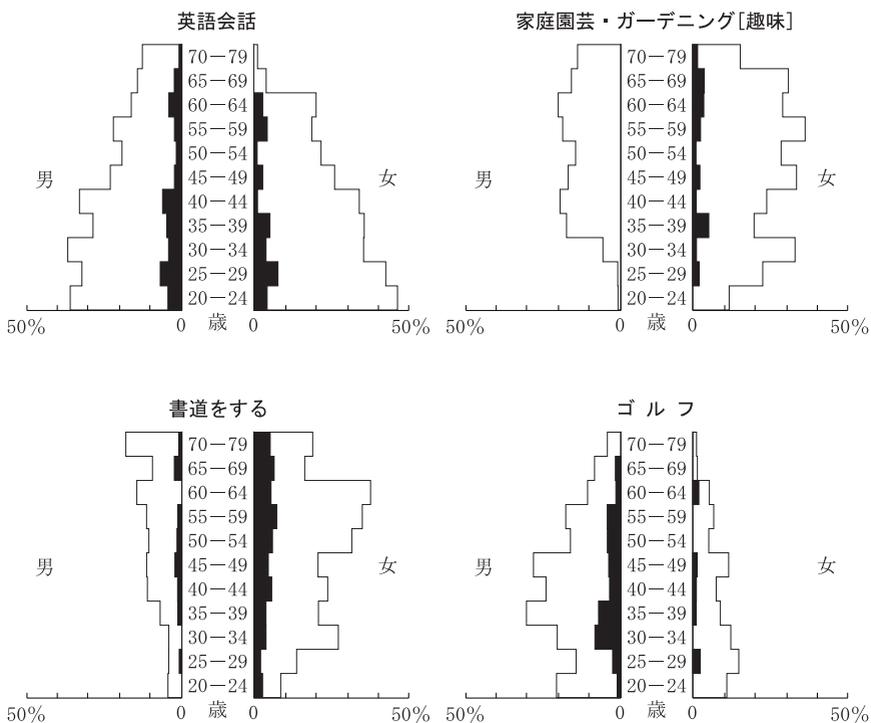
次に，「年金・保険の知識」は，「98調査」では全体で16%で関心の高いのは中年女性であったが，「08調査」では男性が20～60代の幅広い層で関心が強くなったのにたいし，女性は50代で上位にあるだけで，大きく変化している。政治・社会問題として大きく取り上げられている影響が，男性に我がこととして関心をもたれたためであろう。

また「パソコン」に関する項目は，「98調査」では，いくつもの項目が男女を問わず幅広い年層で学習関心の上位にあげられていたが，「08調査」では男性は20～60代で20%を超えて高いが，女性では上位にあるのは40代だけで，一時のブームは過ぎ去ったといえるのであろうか。

では，女性が学びたいと思っているのは何であろうか。「98調査」までは「水泳」「テニス」など多くの女性が関心を持っていたが，「08調査」では女性

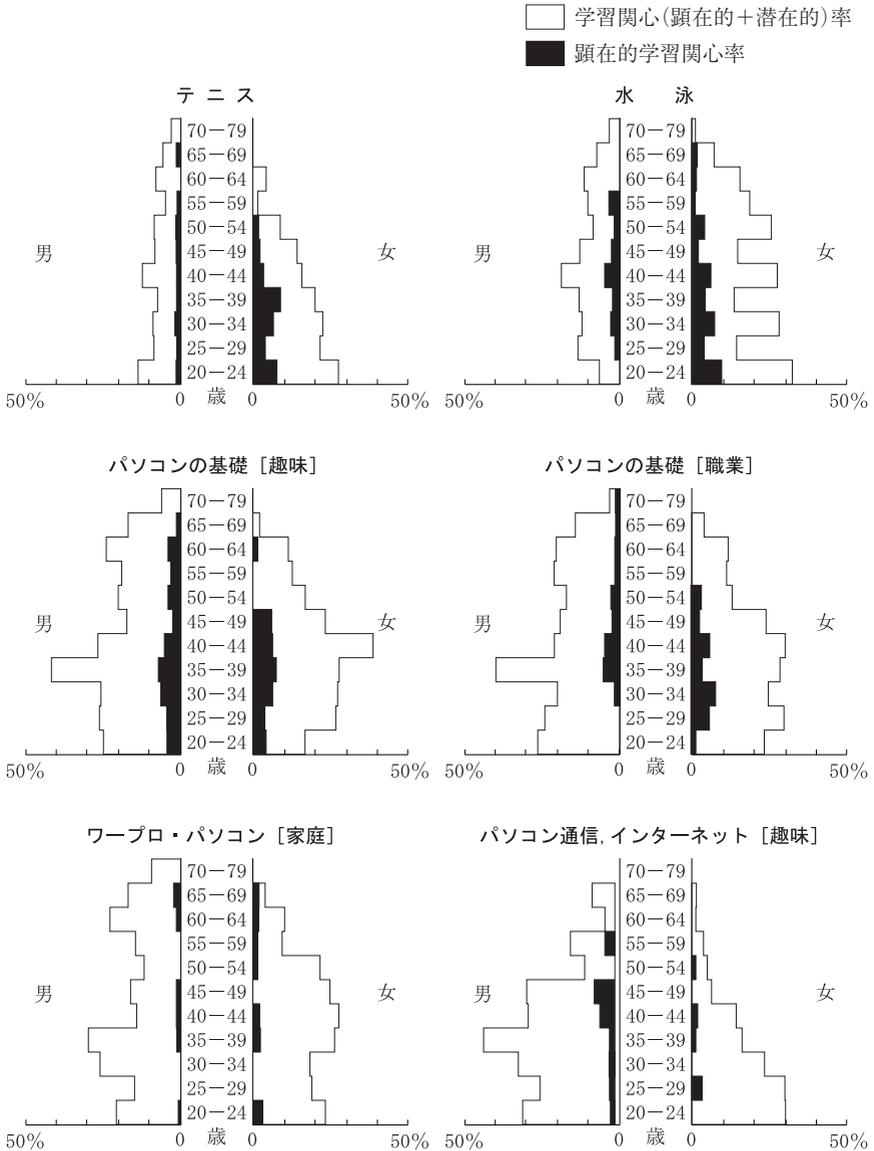
の希望項目の上位にスポーツは入っていない。代わりかどうかわ、20～40代では「ヨガ」が、50～70代では「健康体操」が上位にある。また、「パン・菓子作り」は「98調査」で20～30代が高かったが、「08調査」では20～40代が高くなり、さらに、「08調査」では20～40代女性で「簡単料理・スピード料理」が上位に挙がっているのが目につく。

□ 学習関心(顕在的+潜在的)率
 ■ 顕在的学習関心率



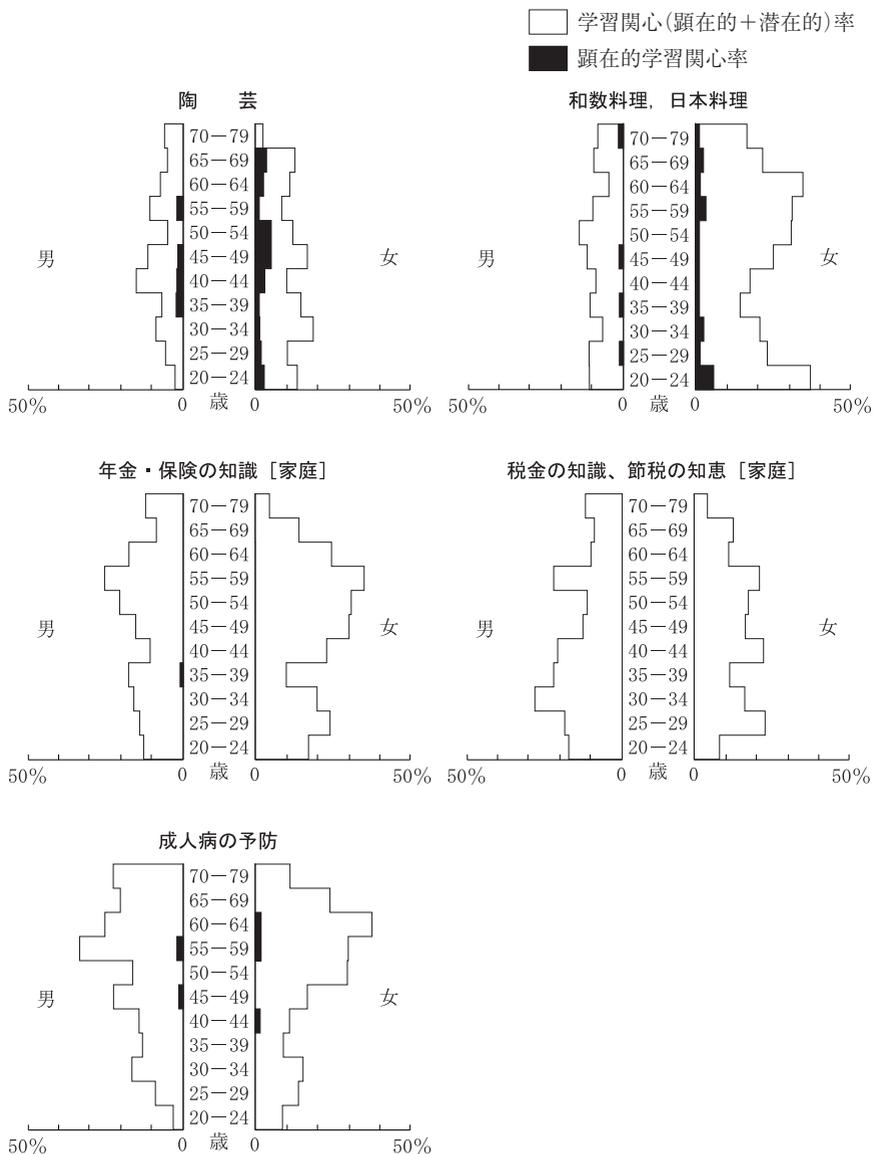
(NHK「放送研究と調査」1998年9月号)

図一 性・年齢別 項目ごとの学習関心率



(NHK「放送研究と調査」1998年9月号)

図-1 性・年齢別 項目ごとの学習関心率 続き 1



(NHK「放送研究と調査」1998年9月号)

図一 性・年齢別 項目ごとの学習関心率 続き 2

表-4 学習関心項目まとめ（男女年層別高位順）〈複数回答〉*上位10項目

男性20代		男性30代 (%)	
1 英語	41	1 英語	44
2 スノーボード	27	2 年金, 保険の知識	24
3 サッカー	23	3 税金の知識, 節税の知恵	24
4 年金, 保険の知識	21	4 地球温暖化	23
5 パソコンの使い方	20	4 日本の歴史全般	23
6 地球温暖化	19	6 パソコンの使い方	22
6 税金の知識, 節税の知恵	19	7 パソコンの基礎	21
6 野球	19	8 食品の安全性	20
9 料理・調理の基礎	19	8 キャンプ, アウトドア	20
9 金融商品の選び方	19	10 ゴルフ	20

男性40代		男性50代	
1 英語	30	1 年金, 保険の知識	28
2 年金問題	25	2 パソコンの使い方	26
3 釣り	24	3 年金問題	26
4 パソコンの使い方	23	3 釣り	26
5 年金, 保険の知識	18	5 旅行術, 街あるき	24
6 日本の歴史全般	18	6 英語	23
6 パソコンの基礎	18	7 地球温暖化	22
6 大型, 特殊自動車運転	18	8 日本の歴史全般	21
9 ゴルフ	17	9 日曜大工	20
10 税金の知識, 節税の知恵	17	10 漢字の知識	18
10 地球温暖化	17		

男性60代		男性70歳以上	
1 日本の歴史全般	28	1 健康体操	29
2 パソコンの使い方	25	2 介護問題	24
3 ウォーキング	24	3 歌をうたう	23
4 年金, 保険の知識	23	4 医療問題	21
4 年金問題	23	5 食品の安全性	20
6 釣り	22	6 書道をする	19
6 健康体操	22	7 食糧問題	18
8 家庭菜園	21	8 税金の知識, 節税の知恵	17
8 生活習慣病の予防	21	9 家庭菜園	17
10 日曜大工	20	9 生活習慣病の予防	17
10 パソコンの基礎	20	9 カメ, 写真	17

表-4 学習関心項目まとめ（男女年層別高位順）〈複数回答〉*上位10項目 続き

女性20代		女性30代 (%)	
1 英語	53	1 英語	50
1 パン、菓子作り	53	2 ヨガ	40
3 ヨガ	44	3 簡単料理、スピード料理	39
4 簡単料理、スピード料理	44	4 パン、菓子作り	35
5 ヘアスタイル、化粧法	42	4 食品の安全性	35
6 惣菜、家庭料理、弁当	41	6 効果的ダイエット	35
6 効果的ダイエット	41	7 住まいの整理法、収納法	33
8 料理・調理の基礎	40	8 惣菜、家庭料理、弁当	30
9 和風料理、日本料理	39	9 習字、ペン習字	29
9 ファッション、おしゃれ	39	10 心理学	28

女性40代		女性50代	
1 英語	42	1 住まいの整理法、収納法	37
2 住まいの整理法、収納法	35	2 健康体操	34
2 パソコンの使い方	35	3 英語	32
4 パン、菓子作り	34	4 食品の安全性	31
4 効果的ダイエット	34	5 家庭園芸、ガーデニング	30
6 簡単料理、スピード料理	32	6 ヨガ	29
7 食品の安全性	31	6 年金問題	29
8 ヨガ	29	6 生活習慣病の予防	29
8 パソコンの基礎	29	9 効果的ダイエット	29
10 習字、ペン習字	28	10 年金、保険の知識	28

女性60代		女性70歳以上	
1 健康体操	41	1 健康体操	33
2 食品の安全性	36	2 介護問題	26
3 生活習慣病の予防	32	3 食品の安全性	23
4 住まいの整理法、収納法	31	4 生活習慣病の予防	21
5 家庭園芸、ガーデニング	30	5 歌をうたう	20
6 簡単料理、スピード料理	28	5 医療問題	20
7 介護問題	27	7 家庭園芸、ガーデニング	19
8 新しい病気と治療法	26	7 低カロリー食、健康食品	19
9 ウォーキング	26	9 書道をする	18
10 低カロリー食、健康食品	25	9 編みもの、レース編み	18

(NHK「放送研究と調査」2008年8月号)

4. 学習方法の変化

学習を行ううえでどのような方法、手段、場で行うか（以下、学習方法）は欠かせない要件である。次に、27年間の学習方法の変化を概観する。³⁾

表－5 学習方法上位5種の推移

(%)

	1982 (第1回)		1985 (第2回)		1988 (第3回)	
利用した方法	1 本・雑誌	31.2	1 本・雑誌	31.6	1 本・雑誌	30.6
	2 グループ・サークル	26.3	2 グループ・サークル	25.7	2 グループ・サークル	26.3
	3 個人教授・塾	17.3	3 テレビ	16.3	3 テレビ	17.1
	4 テレビ	13.5	4 知人・家族	15.0	4 知人・家族	14.4
	5 知人・家族	11.5	5 個人教授・塾	12.5	5 個人教授・塾	11.2
利用したい方法	1 本・雑誌	29.9	1 本・雑誌	28.6	1 カルチャーセンター	26.5
	2 グループ・サークル	28.8	2 グループ・サークル	26.1	2 本・雑誌	26.0
	3 カルチャーセンター	21.0	3 カルチャーセンター	23.3	3 グループ・サークル	24.8
	4 個人教授・塾	21.0	4 テレビ	19.2	4 テレビ	20.9
	5 テレビ	17.5	5 個人教授・塾	17.4	5 個人教授・塾	12.8
	1993 (第4回)		1998 (第5回)			
利用した方法	1 本・雑誌	32.5	1 グループ・サークル	26.8		
	2 グループ・サークル	22.2	2 本・雑誌	25.6		
	3 テレビ	18.4	3 知人・家族	14.0		
	4 個人教授・塾	14.2	4 テレビ	12.6		
	5 知人・家族	13.2	5 個人教授・塾	11.8		
利用したい方法	1 本・雑誌	26.7	1 カルチャーセンター	25.1		
	2 カルチャーセンター	24.0	2 グループ・サークル	23.2		
	3 グループ・サークル	22.2	3 本・雑誌	20.1		
	4 テレビ	19.4	4 知人・家族	14.4		
	5 個人教授・塾	15.0	5 個人教授・塾	13.2		

(NHK「放送研究と調査」1998年11月号)

表－6 学習行動の方法「08調査」(複数回答)

1, グループ・サークル	12.1%
2, 本・雑誌	8.6
3, カルチャーセンター	7.8
4, 知人・家族	7.4
5, テレビ	6.4
6, 学級・講座	6.3

学習行動～メディア系が減り、人間系は根強い

表－5（14ページ）の学習行動の方法の変化を見ると、「82調査」から「93調査」の4回（12年間）はずっと「本・雑誌」が30%超であり「テレビ」も毎回増加していたが、「98調査」では両方とも減少した。これに対し、「グループ・サークル」は26%前後で5回（17年間）変わらず、「知人・家族」、「個人教授」は「85調査」以降それぞれ15%、12%前後で変わっていない。

「08調査」（14ページ、表－6）は調査方法が変わったため直接の比較は出来ないが、「カルチャーセンター」が上位に入った以外は、全体の順位は「98調査」と変わっていない。

以上を、メディアを通して学ぶ「本・雑誌」「テレビ」の『メディア系方法』と、直接人に接して学ぶ「グループ・サークル」「知人・家族」「個人教授」の『人間系方法』に分けてみると、メディア系は減少傾向にあるのに対し人間系は根強い人気を維持しているようである。

学習関心～カルチャーセンター人気、メディア系は低下傾向

今後学ぶ時利用したい学習方法は、実際の利用方法とは異なり、「カルチャーセンター」が「本・雑誌」「グループ・サークル」と並んで25%前後と高い人気を持ち続けているが、そのなかでは「本・雑誌」は低下傾向である。また「個人教授」「テレビ」も低下気味で、特に「98調査」での「テレビ」の低下が目につく。

5. 考察～日本人の学習はどう変化してきたか～

以上、NHKが実施した生涯学習に関する6回の調査の結果データで、27年間の変化を概観してきたが、以下に筆者なりにまとめてみる。

関心・意欲は高いが、行動は低下

学習行動は若～中年層で低下傾向にあるが、高年層は男女とも活発である。一方、学習関心、学習意欲はずっと変わらず高く90%以上を示している。このように、意欲はあるが実行に移せないという傾向が見られる背景には複雑な要

因があるであろうが、若～中年層にとって社会、経済的な閉塞感が大きく影を落としているのではないだろうか。

学習は個人化

学習行動、学習関心ともこの間、集団・グループで行うものから、個人で出来る学習内容への変化が続いているように思われる。例えば、女性のスポーツ領域の学習で言うと「バレーボール」から「テニス」そして「水泳」へとグループで行うものから数人で、そして一人で出来るものへと変わってきたが、更に最近では、健康志向の手段がスポーツというルールがあり技術を要するものから、若・中年層の「ヨガ」、中・高年層の「健康体操」と時間的にも経済的にも手軽にできるものに向かっている。男性でもかつては「野球」が盛んだったが「ゴルフ」に変化したのも、同様の傾向であろうか。

学習方法は人間系に

学習内容が個人で出来るものに変化している一方、学習方法では個人で利用しやすい「本・雑誌」や「テレビ」などの『メディア系』から、人と直接関わる「グループ・サークル」や「知人・家族」などの『人間系』が求められているのは、人間関係の希薄化に対する欲求不満を学習に求めているとも考えられ、現代社会の一面を反映しているともいえよう。

生涯学習の実質化か？

かなり乱暴ではあるが以上を大きくまとめてみると、わが国の成人の学習は、かつての伝統的な、だれでもが同じことを、みんなでいっしょに行うという姿から、一人ひとりが自分のライフスタイルに合わせて、自分のやりたいことを自分に合ったやり方で行うという、生涯学習の理念に沿ったものへと変化している、別の言い方をすれば、生涯学習が実質化しつつあるともいえよう。

しかし、これは人々が真に望む姿に向かっているのであろうか。学習でも個人が基本というのは欧米近代社会の基本原則である。しかし、学習方法で人間系が求められているのに端的に表れているように、わが国は人と人のつながり一

絆を重視する社会であり、それは、きわめて人間くさい営為である学習・教育では特に重視されてきたし、実は現代でも変わらず求められているのではないだろうか。⁴⁾

その意味では、学習が一見矛盾する個人化する傾向と人間系が求められる傾向がともに見られるのは、現代日本社会の混迷、閉塞している姿を象徴的に表しているともいえるのではないだろうか。

註：

1) 「NHK 学習関心調査」については、次の報告書、論文のほか調査ごとに報告がある。

・NHK放送文化研究所編『日本人の学習＝成人の学習ニーズをさぐる＝(NHK 学習関心調査(’82・’85・’88) 報告書)』(第一法規出版, 1990)は前半3回の詳細な報告である。

・学習関心調査プロジェクト『人々は何を学んでいるか～学習関心調査報告1998』(「NHK 放送研究と調査1998年9月号」)は「’98年調査」の報告とともに「’82年調査」～「’98年調査」の5回の調査についての推移がまとめられている。

また、「学習関心とメディア調査」は、

・増田智子, 小林利行『人々の学習関心とメディアに求めているもの』(「NHK 放送研究と調査2008年8月号」)に報告されている。

この各調査の概要は各報告からまとめると次の通りである。

調査の概要

「学習関心調査」は、いずれも次の方法で実施。

調査対象	層化2段無作為抽出により全国の20～79歳3,000人(’82), 3,500人(’85, ’88), 2,400人(’93, ’98)
調査方法	個人面接法と配布回収法を併用
調査内容	① 学習行動, 学習関心(顕在的・潜在的)の内容・方法・時間量・レベル・目的など

② 学習意識, 余暇時間・行動, メディア行動, 生活意識など		
有効数 (率)	1982	2,388 (79.6%)
	1985	2,753 (78.7)
	1988	2,622 (74.9)
	1993	2,001 (83.4)
	1998	1,981 (82.5)

「学習関心とメディア調査」

調査対象 層化2段無作為抽出により全国の20歳以上3,600人

調査方法 配布回収法

調査内容 ① 学習行動, 学習関心の内容・方法

② テレビ・ラジオ視聴・利用学習

③ 時間・経済的ゆとり, いきがい

有効数 (率) 2,583 (71.8%)

また, これらの調査での「学習」の定義は「ある程度のとまりをもった知識・技能 (あるいは態度・能力) の獲得・維持・向上を目指して行う行動」とし, 生徒・学生が学校で行う勉強や, 受験勉強, 社会人が会社・職場で受ける研修・訓練などは除いている。

2) 前掲『人々は何を学んでいるか～学習関心調査報告1998』p.36～43

3) 学習方法については, 「82調査」～「98調査」については, そのつど報告されており, 原由美子・斉藤建作『どんな方法で学んでいるか～1998報告(3)』(NHK放送研究と調査1998年11月号)には, 5回の調査の学習方法の推移が報告されている。

一方, 「08調査」では学習項目1つについて1つの方法が調べられており, 学習行動では全体の比率が報告されているが, 学習関心では項目別集計のみの報告であるため, 学習行動のみで比較する。

4) わが国の教育・教育方法については, 拙著『文化伝承と教育制度 (上), (下)』(皇學館大學文学部紀要第46輯2008, 第47輯2009)を参照されたい。